

仏女新聞

仏女新聞社 飯島可琳

奈良では最低気温が氷点下になるほど寒くなりました。

冬至を過ぎて、寒い日には猫のように家であたたまっていたい気分になりがちです。そんな時こそ重い腰をあげて、お寺に詣でて年末気分を味わうのもいいかもしれません。もうすぐ年が新しくなりますから初詣ですね！

今月のおすすめは…

- 1 金峯山寺 脳天さま
蔵王権現
- 2 東大寺法華堂

金峯山寺 脳天さま

金峯山寺は吉野にあります。春は桜の名所として有名ですが、実は私は桜の時期に金峯山寺に行ったことがありません。来年は吉野の桜を見に行きたいと思えます。しかし吉野は桜ばかりではありません。金峯山寺には冬だからこそ楽しめる場所があります。それは「脳天さま」です。

脳天さまって誰？

豆知識

ある日、金峯山寺の大僧正が頭の割られた蛇を見つけます。かわいそうに思っつてほうむってあげたところ、何度も大僧正の夢に出てきて、「頭の守護神として祀られたい」と語りかけたそうです。その夢をきっかけに金峯山寺に脳天さまが祀られることになりました。ちなみに脳天さまは金峯山寺の本尊、蔵王権現の变化神だそうです。

脳天さまがおられるのは蔵王堂脇から、急で狭い石段をひたすら四〇〇段ほど下ったところです。鳥居をいくつかくぐります。木立で薄暗い石段には水音が響いています。空気がとてもおいしいところで、寒さですがすがしく感じるほどでした。この場所の空気が思い切り楽しめるのが「冬」です。

脳天さまがおられる龍王院にたどり着くには長い石段を降りますし、そこから蔵王堂の敷地に戻るには同じ石段を上らなくてはなりません。だから、暑い日にくよりも寒い冬に行く方がいいという考え方もありますが、考え方はそれだけではありません。もし、暑い日に涼しいところに来たら「涼しさ」だけしか感じない恐れがあります。寒い日に行くと、ただの寒さとは違う「空気」を味わうことができるのです。

これはあくまで私が考えた説です。私は暑い日に脳天さまにお参りしたことがないので、暑い日しか感じられない「空気」があるかもしれません。

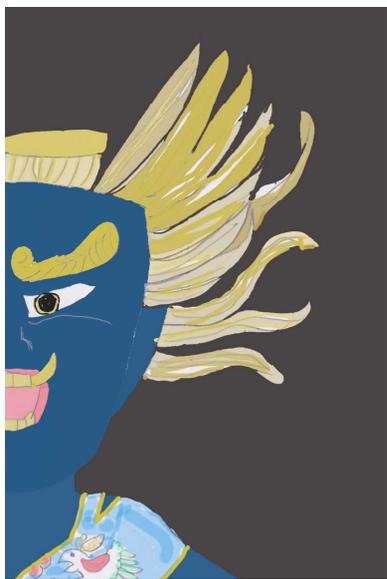
脳天さまにお参りした後、脳天さまのお下りの卵をいただきました。温泉卵のように半熟で甘くておいしい味でした。この卵に会えたのもご縁なのかと思いました。

金峯山寺 蔵王権現

ところで金峯山寺と言えばなんとと言っても蔵王権現でしょう。吉野が桜の名所になったのも、蔵王権現のご神木が桜だからです。最近では仁王門の修理のため、ときどきご開帳されています。

やはり、金峯山寺の蔵王権現を見るとまず「大きさ」に圧倒されます。しかし、圧倒されるのは大きさだけではありません。持ち上げられた足、逆立った髪、そして牙をむいた怒りの顔など全てに迫力があります。

そんな蔵王権現の迫力のひとつだと思っただのが「首の飾り（瓔珞・ようらく）」です。菩薩の首の風に揺れる飾りと同じような



形をしています。よく見ると飾りの繊細さが違います。考えると小さい仏像よりも大きい仏像の方が模様の繊細な飾りをつけることができそうですが、蔵王権現の首飾りは蔵王権現の首が痛くなりそうなのくらい大きく、ずんぐりとしています。蔵王権現の威厳のあるたまたまにぴったりの首飾りだと思えます。

仏像の雰囲気にあつた飾りをつけていると、その仏像の魅力をもっと引き立たせることができるのではないかと思います。

東大寺 法華堂

東大寺では毎年十二月十六日の開山忌に法華堂の執金剛神の開帳があります。本尊の不空羅索観音さまと背中合わせに立つて背後を守っている仏像です。この執金剛神は良弁がつくったものだといわれています。

執金剛神の天衣が波打っているところが目にとまります。下から風が吹いているように天衣がふんわりと広がり、とても美しく見えます。仁王や四天王など仏教を守る仏たちは力強い造形で作られていることが多く、天からすーっと降り立った天女のようなやわらかい雰囲気はあまりありません。しかし、この執金剛神は力強さとしとやかさの両方を兼ね備えています。しとやかさは仏の慈悲の心でしょうか。

二〇一四年はありがとうございました。
二〇一五年もよろしくお祈りします。